

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年6月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年6月14日～6月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 127社
- 回収率 63.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の6月の状況を見ると業況DIは、前月より9.3ポイント悪化の▲37.0となった。

2017年9月以来46ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲33.9、当月と比べ3.1ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2021年7月～ 2021年9月
業況	▲46.0	▲47.6	▲28.8	▲20.5	▲27.7	▲37.0	▲33.9
売上	▲44.5	▲48.4	▲26.4	▲4.1	▲10.8	▲22.0	▲14.9
採算	▲43.7	▲43.5	▲31.2	▲17.2	▲22.3	▲41.0	▲36.2
仕入単価	▲16.6	▲25.0	▲34.4	▲36.9	▲36.2	▲44.9	▲47.2
販売単価	▲16.7	▲17.0	▲6.4	0.8	0.0	6.3	5.6
従業員	8.7	14.5	12.0	18.0	19.2	16.5	22.0
資金繰り	▲19.0	▲23.4	▲20.0	▲10.7	▲15.4	▲13.4	▲19.7

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2021年7月～ 2021年9月
建設	▲22.2	▲16.7	▲23.4	▲17.3	▲28.5	▲32.3	▲41.9
製造	▲45.2	▲50.0	▲32.1	▲24.1	▲13.4	▲25.0	▲21.5
卸売	▲35.7	▲39.3	▲17.9	▲15.4	▲27.6	▲29.6	▲25.9
小売	▲58.8	▲52.9	▲50.0	▲20.0	▲35.0	▲61.1	▲38.9
サービス	▲78.3	▲80.0	▲30.5	▲26.1	▲39.1	▲47.9	▲43.5

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・ウッドショックによる木材の高騰及び供給不足による受注状況の悪化及び採算性の悪化が懸念される。各現場事務所における自社及び協力会社職員の新型コロナウイルスワクチン接種状況の進捗状況が課題（夏季における現場ではマスク着用による熱中症リスクが増加）。緊急事態宣言下での本社事務部門（総務・営業）の在宅勤務による効率の悪化がみられる。リモートでの代用可能な業務が少ない。（総合工事） ・回復傾向ではあるが 3 ヶ月連続で一般戸建ての工事が昨年と比べ減少している。この先も厳しい状況になると判断している全体の業績は、一般戸建て工事の落ち込みを他の定例的な工事でカバーをしているので、現在のところ大幅な悪化には至っていない。人材については充足しているが、将来を見据えた若い人材の確保を積極的に進めたい。（設備・その他） ・仕事量は当初の予定通り受注。但し今後コンパネ材、材木材等資材単価の上昇及び品不足が心配される。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言からまん延防止等措置になったが、発注量が増加しないので先行きが不透明である。（食料品） ・飲食店での酒類の提供が始まったので、売上減少が落ち着くことを期待したいが、まだ厳しい状況。（食料品） ・毎年 6 月に開催している旭川デザインウィークは昨年中止となり、今年も 6 月はオンライン開催、9 月に集客開催することとなった。分散開催の効果を下半期に反映させるべく、新たな取り組みに挑戦している。（家具・木材） ・主要購入資材の価格上昇が続いている。見積もりと納品時期の関係で資材の価格帯の読みが困難。（金属窯業等）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・5 月 16 日の緊急事態宣言後、特に外食業務筋への販売が厳しい状況。今後まん延防止による影響が続くと思われる。（飲食料品） ・売上増加はグループ会社の合併によるもの。仕入価格や販売価格に変動はなく、業績は例年通りの見込み。（飲食料品） ・原油価格が上昇傾向にあり、石油製品全般において販売価格の上昇が当面続くと思われる。（その他） ・建築資材が上昇傾向。ウッドショックにより秋口以降の住宅の受注が不透明であり、業績悪化が見込まれる。（機械鋼材）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月新型コロナウイルスによる影響。緊急事態宣言もあり、来店客もまったくないので閉店時間も 1 時間ほど早め時短営業を強いられている。資金繰りが厳しい。（衣服見回品） ・新型コロナの影響で昨年から来店客数が激減。飲食店と違い休業要請も出ていないので、休業補償もないため来店客数が少なくても営業するしかない。緊急事態宣言が解除されたので、これからの観光シーズンに期待している。（その他） ・転職した営業担当者の補充ができず、売上の回復に向けた手が打てない状況にある。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスにより国内をはじめ海外の観光客減少、ホテル宿泊業は売上半減以下、それに準じて洗濯物が大幅に減少。昨年から経営が非常に厳しい。（理美容・クリーニング） ・最低最悪な前年と比べれば好転しているが、通常月と比べるとまだまだ最悪な状態。（ホテル・旅館） ・公共工事については前年並みの売上を見込んでいるが、民間工事についてはコロナの影響により事業の見直しや営業活動の自粛等もあり厳しい状況が続く。（その他） ・新型コロナウイルスによる影響で売上の減少。資金繰りの悪化を招き、飲食業者として深刻な状態に陥っている。（飲食） ・緊急事態宣言後、ワクチン接種推進など今後の経済状況を大きく左右する案件の推移によるが、昨年最悪期からは多少抜け出してこれることを期待。それでも一昨年の 7 割弱レベルであり、国や自治体からの政策的、資金的に問わず支援の強化を望む。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI11.2 ポイント悪化、採算 DI14.9 ポイント悪化、仕入単価 DI1.9 ポイント改善、販売単価 DI6.7 ポイント改善、資金 DI17.5 ポイント悪化、従業員 DI9.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 11.2 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事横ばい、設備・その他 13 ポイント、建築業 33 ポイント悪化となった。緊急事態宣言発出による消費者マインドの低下を要因とする一般個人住宅新築需要の減退及び民間発注の減速感による受注量の減少が懸念材料。完全な感染防止策がないことが事業継続していく上での課題。「感染症 BCP」の見直しも含め、全社網羅的に事業継続可能な体制を引き続き構築・維持していくとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI26.5 ポイント改善、採算 DI13.8 ポイント改善、仕入単価 DI1.3 ポイント改善、販売単価 DI0.3 ポイント悪化、資金 DI3.4 ポイント改善、従業員 DI13.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 10.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、家具・木材 11 ポイント悪化、食料品 14 ポイント、印刷・出版 27 ポイント、金属窯業他 10 ポイント改善となった。現状は昨年比でいうと好転だが、この度の緊急事態宣言及び対象地域拡大による影響は今後出てくると予測する。キャリア採用の求人を経続的にやっているが採用につながるケースが少なく苦慮しているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI17.6 ポイント悪化、採算 DI1.6 ポイント改善、仕入単価 DI0.5 ポイント改善、販売単価 DI8.0 ポイント悪化、資金 DI8.5 ポイント改善、従業員 DI1.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.2 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 38 ポイント改善、繊維・衣服等 65 ポイント、機械鋼材 17 ポイント、その他 28 ポイント悪化となった。住宅産業は今後少子高齢化、ストック住宅の増加により従来のように右肩上がりの着工数が望めないのに加え、今回のコロナ禍で先行きが不透明（2 極化が進むアメリカの住宅産業の活性化により）2×4 材の高騰が危惧されるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI6.7 ポイント悪化、採算 DI18.3 ポイント悪化、仕入単価 DI10.0 ポイント悪化、販売単価 DI11.6 ポイント改善、資金 DI11.7 ポイント悪化、従業員 DI5.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 15.0 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 8 ポイント改善、衣料品横ばい、その他 29 ポイント、自動車 35 ポイント悪化となった。昨年に引き続き緊急事態宣言が発令されたことで、先行きは不透明のまま。アフターコロナの観光客増に伴い業績も改善されることを期待していたが、残念ながら今年も期待できない。ワクチン接種により早く収束してくれることを願うばかりとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI30.5 ポイント悪化、採算 DI13.0 ポイント悪化、仕入単価 DI4.3 ポイント改善、販売単価 DI13.1 ポイント悪化、資金 DI8.7 ポイント悪化、従業員 DI8.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 13.0 ポイント悪化となった。業種別では、整備業 25 ポイント改善、理美容・クリーニング、運送横ばい、ホテル・旅館 17 ポイント、その他 15 ポイント、飲食 27 ポイント悪化となった。今のところ昨年よりは上であるが、まだまだ一昨年ベースにはほど遠い。コロナ関連で市中の情勢によっては、再び昨年の状況になる恐れもあり非常に不安との声も寄せられている。</p>